

はじめに

globalization（グローバル化）という言葉が使われ始めて数十年が経ち、**今や英語は限られた人たちのものではなくなりました**。私たちは自宅にいながらにして、Web サイトや SNS で情報を集めたり、YouTube で動画を見たりする中で多くの英語の情報に出会います。また、英語のニュースを読んだり、仕事で英語を使ったりする方も多いでしょう。

インターネット上の情報量において、英語は日本語の 10 倍以上とも言われています。つまり、**英語が読めるようになれば、今の 10 倍もの情報に触れることができる**ということです。英語が当たり前に存在するようになった日常の中で、「**もっと英語ができたらいいな**」と感じる瞬間があるのではないのでしょうか。

心に響く名言で、英文法を学び直す

そうした方に、**異なる言語に触れる楽しさ**や、英文を読む中で**視野が広がっていく面白さ**を感じながら英語力を身につけてほしいという思いから、『**名言英文法**』は生まれました。本書は、**心に響く名言を通して英文法を学ぶ**、新発想の英文法書です。317 の英語名言を例文として取り上げ、人生を豊かにする言葉を味わいながら文法を学んでいきます。

新発想とは言っても、本書を通して学習する文法事項はスタンダードなものです。**しばらく英語から離れて忘れてしまった方**や、**文法に今ひとつ自信がない方**が、**中高6年間で学ぶ文法事項を一通り復習していただける構成**となっています。もちろん、現役の学生の方も、英文法の要点を押さえるのにご活用いただけます。

そんな本書には、「文法書」と「名言集」という2つの側面があります。

「生きた言葉で学ぶ」文法書として

文法は、「読む・聞く・話す・書く」のすべてに通じる英語のルールです。「文法＝難しい」と感じる方もいるかもしれませんが、スポーツなどでよく「理論がわかれば上達も速い」と言われるように、語学においても、**理論を知ることが上達の近道**になります。

通常の学習参考書の例文は、その文法事項を説明するために書き下ろされていることがほとんどです。それらは学習者が理解しやすいように計算し尽くされている一方で、誰かの心のこもった、生きた言葉ではありません。

本書で例文として取り上げているのは、**人生をかけて何かに取り組んだ人たちの言葉**です。誰もが知っている偉人から、ある分野で功績を残した知る人ぞ知る偉人まで、1つ1つの名言からその人の生き様が感じられるでしょう。初めて知る人物がいたら、どんなことをした人なのか、ぜひ調べてみてください。きっと新たな発見やインスピレーションが得られるはずです。

「挫折しない」英語名言集として

また、世の中にはさまざまなテーマの英語名言集があり、「**せっかくなら、素敵な言葉に触れながら英語を学びたい**」と考え、こうした名言集を手取る方も多いでしょう。

しかしながら、名言を味わうことに主眼を置いた名言集には、補足的な解説はあれど、徹底した文法解説があるものは多くありません。そのために、初中級者が学習目的で取り組もうとすると、「**なぜこの訳になるの？**」と疑問が残ることもしばしばです。

前述の通り本書は、英語名言を例文としながら、中高6年間で学ぶ文法事項を一通り学習できるようになっています。前のページから順番に取り組むのはもちろん、途中でわからないところがあれば、関連する他のページを参照して、疑問を解消することができます。

それにより、英語に苦手意識をお持ちの方も、「**このルールがあるから、この名言はこういう意味になるんだ**」と理解しながら、もやもやが残ったり途中で挫折したりすることなく、心ゆくまで名言を味わうことができます。その繰り返しの中で、**英語力がぐっと高まっていくはず**です。

さらに、本書の名言には**読み上げ音声**がついており、**無料でダウンロードおよびストリーミング再生が可能**です。名言として受け継がれている言葉の中には、**独特のリズムがあったり、韻を踏んでいたりするものも多くあります**。ただ読むだけでは気づきにくいものですが、ぜひ読み上げ音声もご利用いただき、目だけでなく耳でも楽しんでいただければと思います。

本書が1人でも多くの方の英語力向上に役立つと同時に、これまで知らなかった新たな世界に触れるきっかけになることを願っています。

2021年3月 Z会編集部

はじめに	3
本書の構成と利用法	10

Part 1

Section 1	品詞	14
Section 2	文型	32
Section 3	文の種類	44
Section 4	基本時制	52

Part 2

Chapter 1 完了形と進行形 61

Section 1	経験を表す現在完了形	62
Section 2	継続を表す現在完了形	64
Section 3	完了を表す現在完了形	66
Section 4	現在進行形	68
(参考)	その他の完了形と進行形	71

Chapter 2 動名詞 75

Section 1	動名詞の基本	76
Section 2	動名詞を使った表現	78

Chapter 3 不定詞 83

Section 1	名詞の役割をする to 不定詞	84
Section 2	形容詞の役割をする to 不定詞	86
Section 3	副詞の役割をする to 不定詞	89
Section 4	SVO + to 不定詞	92
Section 5	疑問詞 + to 不定詞	94

Chapter 4 分詞 99

Section 1	名詞を修飾する限定用法	100
Section 2	補語になる叙述用法	102
Section 3	分詞構文	104

Chapter 5 比較 109

Section 1	比較変化と比較級	110
-----------	----------	-----

Section 2	比較の対象	112
Section 3	最上級	114
Section 4	同等比較	116
Section 5	さまざまな比較表現	118
Section 6	否定語を使った比較表現	120

Chapter 6 助動詞 125

Section 1	能力・可能性・意志を表す助動詞	126
Section 2	義務・必要を表す助動詞	130
Section 3	助動詞の否定形	133
Section 4	助動詞 + 完了形	136

Chapter 7 受動態 141

Section 1	受動態と能動態	142
Section 2	さまざまな受動態	145

Chapter 8 代名詞 151

Section 1	「一般の人」を表す代名詞	152
Section 2	it のさまざまな用法	154
Section 3	不特定のものを表す one	156
Section 4	「部分」を表す代名詞	158
Section 5	「全体」を表す代名詞	160

Chapter 9 接続詞 165

Section 1	名詞節を作る接続詞	166
Section 2	時を表す接続詞	168
Section 3	条件を表す接続詞	171
Section 4	逆接・対比を表す接続詞	173
Section 5	理由・目的を表す接続詞	176
Section 6	セットで使う相関接続詞	179

Chapter 10 関係詞 185

Section 1	主格の関係代名詞 who	186
Section 2	主格の関係代名詞 which / that	188
Section 3	目的格の関係代名詞	190
Section 4	所有格の関係代名詞	192
(参考)	関係代名詞の制限用法と非制限用法	193

Section 5	「…なもの〔こと〕」を表す what	194
Section 6	関係副詞	196
Section 7	複合関係詞	200
Chapter 11	仮定法	207
Section 1	仮定法の基本	208
Section 2	さまざまな仮定法	211
Chapter 12	その他の文法・語法	217
Section 1	倒置・強調・同格	218
Section 2	省略・挿入	221
Section 3	強調構文	223
Section 4	間接疑問	225
Section 5	使役動詞	227
Section 6	知覚動詞	230
Close-up Column		
	Albert Einstein (アルベルト・アインシュタイン)	30
	Mark Twain (マーク・トウェイン)	42
	Oprah Winfrey (オプラ・ウィンフリー)	50
	Jim Rohn (ジム・ローン)	58
	Eleanor Roosevelt (エレノア・ルーズベルト)	72
	Nelson Mandela (ネルソン・マンデラ)	80
	Stephen Hawking (スティーブン・ホーキング)	96
	Katharine Graham (キャサリン・グラハム)	106
	Bertrand Russell (バートランド・ラッセル)	122
	Steve Jobs (スティーブ・ジョブズ)	138
	Hannah Arendt (ハンナ・アーレント)	148
	Muhammad Ali (モハメド・アリ)	162
	Andy Warhol (アンディ・ウォーホル)	182
	Malala Yousafzai (マララ・ユスフザイ)	204
	Emma Watson (エマ・ワトソン)	214

索引

文法用語索引	232
英文語句索引	233

品詞	1
文型	2
文の種類	3
基本時制	4
完了形と進行形	1
動名詞	2
不定詞	3
分詞	4
比較	5
助動詞	6
受動態	7
代名詞	8
接続詞	9
関係詞	10
仮定法	11
その他の文法・語法	12
索引	索引

英語の単語は、文の中でどのような役割をするかによって、主に8つのグループに分類されます。このグループを**品詞**と言います。英語では、**どの位置に、どの品詞が来るかによって文の意味が変わるので、品詞の理解はとても重要です**。英文を正しく理解するために、それぞれの品詞の役割を理解しましょう。

名詞

♪ 001

名詞は人や物事の名前を表し、文の骨格を作る上で重要な役割をします。名詞の性質を理解するための基本として、**①数えられるか数えられないか(可算か不可算か)**、**②単数か複数か**、**③冠詞がつくかつかないか**の3点を押さえましょう。

1 I have a **dream** today!

今日、私には夢がある！ Martin Luther King, Jr. 1929-1968 牧師、公民権運動家

2 People are **flowers**. Music is **water**. Musicians are the **hose**.

人々は花。音楽は水。ミュージシャンは(花に水をやる)ホースなんだ。
Carlos Santana 1947- メキシコ出身のギタリスト

可算名詞と不可算名詞

①と②に出てくる名詞を、可算・不可算に分類してみましょう。

可算名詞 (数えられる)	dream 、 people 、 flowers 、 musicians 、 hose
不可算名詞 (数えられない)	music 、 water

dream、**flower**、**hose** は、1つある場合も、2つある場合もあり得ますから、数えられます。**musician** も1人、2人と数えられます。一方、**music** は「音楽」という概念を表していて、1つ、2つとは数えられません。また、**water** は決まった形を持たないので数えることができません。

ただ、**water** はコップに入れて **a glass of water**、**two glasses of water** のように数えることができます。このように液体は容器を数えて表現できます。その他、**a piece of paper** (1枚の紙)、**two spoonfuls of sugar** (2杯の砂糖) のように、形や単位を使って数える不可算名詞もあります。

不可算名詞の中でも **music** のように概念を表す名詞は**抽象名詞**と呼ばれ、他に **kindness** (優しさ)、**importance** (重要性) のようなものがあります。**water** のように決まった形や区切りのないものを表す名詞は**物質名詞**と呼ばれ、**rain** (雨)、**bread** (パン) のようなものがあります。

名詞の単数と複数

次に、可算名詞の場合、それが単数か複数かに注目する必要があります。**dream**、**hose** は単数ですが、**flowers**、**musicians** は複数であることを示す **-s** がついています。例外として、**people** は「人々」という集団を表していて、**-s** をつけずに複数の人々を表します。このように同類の人やものの集まりを表す名詞は**集合名詞**と呼ばれ、他に **staff** (職員)、**audience** (聴衆) などがあります。

3 A **mistake** is simply another way of doing things.

間違いというのは、単に物事を行う別の方法なのです。

Katharine Graham 1917-2001 ワシントン・ポスト社主

4 You can't change **the fruit** without changing **the root**.

根本を変えずして、その成果を変えることはできない。

Stephen R. Covey 1932-2012 著述家、経営コンサルタント

without doing : …せずに、…することなしに

Close-up Column Katharine Graham (キャサリン・グラハム) p.106

不定冠詞 a と定冠詞 the

冠詞は名詞の前について、その名詞が**不特定のものか特定のものか**を示します。**不定冠詞の a は通例可算名詞の単数形の前につき、その名詞が「いくつかあるうちのどれか1つ (=不特定の1つ)」であることを示します**。③の **a mistake** は、具体的に誰のどんな間違いなのか特定していないので、**a** がついています。名詞が母音で始まる時は **an** を使います。不特定でも複数のものは **things** のように冠詞はつけず、単に複数形にします。

それに対して、**定冠詞の the は話し手と聞き手の双方が特定できる名詞の前につき、「その~」「例の~」のような意味で使われます**。可算、不可算、単数、複数にかかわらず、すでに話題に

1 To think is not enough; you must think of something.

考えるだけでは不十分だ。意義のあることを考えなければ。

Jules Renard 1864-1910 フランスの小説家、劇作家

something: (この文では) (名) 重要なこと、良いこと

Key point 動名詞との共通点と違いを確認

動名詞との共通点

名詞の役割をする to 不定詞は、動名詞と同様に「…すること」という意味を表し、文の中で主語・目的語・補語として使われます。例えば 1 では、To think (考えること) が文の主語になっています。この用法は to 不定詞の名詞的用法と呼ばれます。

動名詞との違い

動名詞は現在・過去の意味を、to 不定詞は未来の意味を含んでいるため、次のような違いがあります。

① 動詞の目的語になる場合、述語動詞によってどちらを使うかが決まる。

動名詞を目的語にとる動詞	keep、enjoy、finish、stop、consider など ※「今していること」を「続ける、やめる」などの意味を表す動詞が多い。
to 不定詞を目的語にとる動詞	want、hope、expect、decide、mean など ※「これからすること」を「望む」などの意味を表す動詞が多い。
どちらでも良い動詞	like、start、begin、continue など

例) 歩き続ける ○ keep walking × keep to walk
 歩きたい ○ want to walk × want walking
 歩き始める ○ start to walk ○ start walking

② どちらを目的語にとるかによって、意味が異なる動詞がある。

例) remember + 動名詞 (…した覚えがある) = 動名詞が「過去にしたこと」を表す
 remember + to 不定詞 (忘れずに…する) = to 不定詞が「これからすること」を表す

2 It is not enough to be busy; so are the ants. The question is: What are we busy about?

忙しいというだけでは不十分だ、アリだって忙しいのだから。問題は、何をしていますかということだ。

Henry David Thoreau 1817-1862 思想家、ナチュラリスト

1 のように To be busy is not enough. とできますが、to 不定詞に続く語句が長い場合、よく (it is ~ + to 不定詞) が使われます。仮の主語として it を置き、本来の主語 to be busy を後ろに持ってくる構文です (→形式主語 p.154)。文頭的主語が長すぎると伝わりにくいため、すっきりとした文にするために使われます。なお、(so + V + S) は「S も同じく…だ」という意味で、1 文目の so are the ants は「アリも忙しい」ことを表しています。

3 The best preparation for good work tomorrow is to do good work today.

明日良い仕事をするための最善の準備は、今日良い仕事をするることだ。

Elbert Hubbard 1856-1915 アメリカの思想家、作家

この文は第2文型 (SVC) で、主語は The best preparation ... tomorrow、補語は to do good work today です。to do が目的語と修飾語を伴って、ひとかたまりの名詞句を作っています。good work tomorrow と good work today の対比が印象的な名言です。

4 Try not to become a man of success, but rather a man of value.

成功者になろうとせず、価値ある人間になろうとしなさい。

Albert Einstein 1879-1955 ドイツ生まれの物理学者

not A but rather B: A ではなく、むしろ B

Close-up Column Albert Einstein (アルベルト・アインシュタイン) p. 30

not to become ~ (～にならないこと) が try の目的語になり、「～になろうとするな」という意味を表しています。to 不定詞を否定するには前に not をつけます。ただし、to 不定詞が「…しないために」という否定の目的を表す時は、多くの場合 so as not to や in order not to を用います (→ p.89)。なお、(of + 名詞) は「～の性質を持った」という意味で、of success と of value はそれぞれ a man を修飾する形容詞のような役割をしています。

1 The greatest risk is standing still.

何もしないことが最大のリスクだ。

Anonymous (作者不詳)

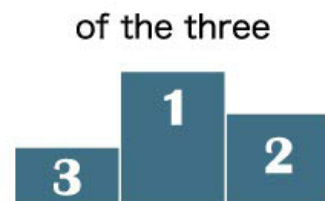
still: (副) じっとして、黙って

Key point 3つ以上のものを比較し、「最も…だ」を表す

the + 最上級 + in / of ~

最上級の前には定冠詞 **the** をつけます。これは「最も…なもの」は普通1つに限定されるため、**1** も **greatest risk** の前に **the** がついています。ただし、形容詞の叙述用法 (p.19) や副詞の前には **the** がつかないこともあります (→ **3**)。何の中で一番なのかという比較対象を表す場合は、次の前置詞が使われます。

前置詞	前置詞に続く名詞	例
in	集団や場所、範囲を指す名詞	in <i>one's</i> class、in Japan
of / among	複数のものを指す名詞	of the three、among them



関係詞節で比較対象を表す

関係代名詞 (p.185) の導く節を使って比較対象を表すこともあります。よく一緒に使われるのが経験を表す現在完了形で、次の例のように「**今までに～した中で最も…だ**」の意味を表します。肯定文では「今までに」は **before** を使いますが、この場合例外的に **ever** を使います。

例) This is **the most beautiful sunset (that) I have ever seen.**

(これは私が今までに見た中で、一番きれいな夕焼けです。)

one of the + 最上級 + 名詞の複数形

「最も…なもの」が1つに限定されない場合、**(one of the + 最上級 + 名詞の複数形)** という表現を使います。日本語の「**最大級の、有数の、屈指の**」に当たる意味を持ちます。

例) Steve Jobs was **one of the greatest business leaders** in the world.

(スティーブ・ジョブズは世界屈指の偉大なビジネスリーダーの1人でした。)

2 The first step is always the hardest.

最初の一步がいつも一番難しい。

English Proverb (ことわざ)

hardest は、形容詞 **hard** (難しい) の最上級です。叙述用法の形容詞には **the** がつかないことが多いですが、この場合は **the hardest step** (最も難しい一歩) の **step** が省略された限定用法ととらえることができます。「すべての **steps** の中で」という意味が明らかなため、比較対象は述べられていません。

3 Kites rise highest against the wind — not with it.

風が一番高く上がるのは、風に向かっている時であり、風に流されている時ではない。

Winston Churchill 1874-1965 第二次世界大戦中のイギリス首相

highest は副詞 **high** (高く) の最上級で、動詞 **rise** を修飾しています。このように副詞の最上級の前には定冠詞 **the** がつかないことがよくあります。**not with it (= the wind)** がダッシュの後に付け加えられ、**against the wind** と対比されています。チャーチルの不屈の精神が表れている名言です。

4 Humor is by far the most significant activity of the human brain.

ユーモアは人間の脳の飛び抜けて重要な活動である。

Edward de Bono 1933- 医師、「水平思考」を提唱

most significant は形容詞 **significant** の最上級です。最上級の前に **by far** が置かれているのは、その差が「**はるかに…だ**」と強調しているためです。**by far** の他、**much** や **very** でも最上級を強調することができます。